

施策評価（令和5年度）

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿6 生涯にわたり学び続けられる環境の構築			
幹事部局名	教育庁	担当課名	生涯学習課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和5年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

県民が、ふるさと秋田の魅力を発見し、豊かな感性を育むとともに、ライフステージや生活スタイルに応じて生涯にわたり学び続けられる社会の構築を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	判定	備考
①	【施策の方向性②】 県立美術館・近代美術館・県立博物館・農業科学館の利用者数(人)	目標			280,000	370,000	375,000	380,000	94.7%	b	
	実績	353,589	169,596	265,290							
	出典: 県教育庁調べ	達成率			94.7%						
②	【施策の方向性①】 障害者を対象とした講座や障害者の参加に配慮した講座を実施した市町村数(市町村)	目標			17	19	21	23	100.0%	a	
	実績	15	15	17							
	出典: 県教育庁調べ	達成率			100.0%						
③	【施策の方向性①】 県立・市町村立図書館等の個人貸出冊数(千冊)	目標			2,780	2,820	2,860	2,900	92.4%	b	
	実績	2,733	2,567	2,568							
	出典: 県教育庁調べ	達成率			92.4%						
④	【施策の方向性②】 国・県指定等文化財の件数(件)	目標			785	788	791	794	101.3%	a	
	実績	770	785	795							
	出典: 県教育庁調べ	達成率			101.3%						

※ 指標の判定基準

a: 達成率 \geq 100% b: 100% $>$ 達成率 \geq 90% c: 90% $>$ 達成率 \geq 80% d: 80% $>$ 達成率 \geq 70% e: 70% $>$ 達成率
n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.50 (B相当)	① a 判定 × 2 個 = 8 点 ④ d 判定 × 0 個 = 0 点
	② b 判定 × 2 個 = 6 点 ⑤ e 判定 × 0 個 = 0 点
	③ c 判定 × 0 個 = 0 点
	①～⑤の合計 14 点 ÷ 4 個(判明済み指標) = 3.50

※ 指標の判定基準 a:4点 b:3点 c:2点 d:1点 e:0点

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

A相当: 平均点が3.6点以上 B相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 C相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
D相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 E相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 多様な学びの場づくり】

- 障害者の生涯学習をより多くの人に周知するため、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」秋田大会をオンラインで開催したところ、127人(+49人)の参加が得られた。
- 県立図書館では、県民の多様な読書ニーズに対応できるよう、市町村立図書館や学校図書館に向けて、テーマ別の本のセット資料の内容追加及び更新を行っているほか、季節や時々のトピックスに関する関連資料や情報を展示等により利用者に提供した。

【施策の方向性② 良質な文化芸術に親しむ機会の充実と文化遺産の保存・活用】

- 新型コロナウイルス感染症防止策を徹底し、リモート講演会等イベントの開催に工夫を凝らすなど、安全・安心な環境で文化芸術に親しむ機会を提供した結果、美術館、近代美術館、博物館、農業科学館の利用者数は昨年度より増加した(+28,751人)。
- 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、縄文遺跡群や民俗芸能等を活用する機会を設けることで県民の保存への意識を高めた。また、西馬音内の盆踊や毛馬内の盆踊を含む「風流踊」が令和4年ユネスコ無形文化遺産に登録される等、本県の文化財の魅力が高く評価されている。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
B	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.50で「B相当」であることから、総合評価は「B」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

4 県民意識調査の結果

質問文	県民がライフステージや生活スタイルに応じて、生涯にわたり学び、文化芸術に触れる機会が提供されている。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	14.2%				
	十分 (5点)	1.8%				
	おおむね十分 (4点)	12.4%				
	ふつう (3点)	48.9%				
	否定的意見	17.4%				
	やや不十分 (2点)	11.1%				
	不十分 (1点)	6.3%				
	わからない・無回答	19.5%				
平均点	2.90					

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者が参加可能な生涯学習の講座実施市町村は年々増加しているものの、講座参加者の受入に係る施設環境及び人員体制の未整備等により、25市町村中17市町村に留まっている。 ○ 新型コロナウイルス感染症対策のため、読書活動について積極的な広報を控え、イベントや対面による相談の休止等利用を制限したことにより、貸出等の利用が伸び悩んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者を対象とした講座や障害者の参加に配慮した講座を実施する上での課題や方向性等を関係者による協議で明らかにするとともに、県内市町村の教育委員会や福祉部局、特別支援学校や福祉事業所等との連携強化を図っていくことで、取組を全県域に広げていく。 ○ 県読書活動推進連絡協議会や学校図書館への訪問、研修等の機会を捉えて情報収集と情報提供を行うなど連絡を密にし、図書館の資料整備や環境整備を進めながら、利用状況の回復と読書活動推進のための広報を行っていく。
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和5年4月に改正博物館法が施行され、デジタル技術の積極的活用、他の博物館及び地域の多様な主体との連携、地域的・社会的課題への対応、地域の活力向上への取組等、博物館の更なる機能強化が求められている。 ○ 縄文遺跡群や風流踊など本県の文化財の魅力が認められつつあるが、地域住民が参加した保存や活用の取組が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての人々に開かれた文化・教育施設としてのミュージアムを目指し、博物館同士や地域の多様な主体との連携により、特別展の更なる充実、デジタル技術を活用した新たな鑑賞・体験の機会創出、障害者の生涯学習、鑑賞のバリアフリー化等に取り組み、文化観光振興・賑わい創出を図る。 ○ 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、観光部門や地域づくり部門、学校教育等と連携した取組を推進することで、地域住民の文化財を継承しようという気運を盛り上げ、保存と活用の相乗効果を図る。

6 政策評価委員会の意見

--